ナラ枯れ被害防止(おとり丸太)現地調査会を開催しました

令和5年9月6日(水)、ナラ枯れ対策の一つの手法である「大量集積型 おとり丸太法」の現地調査会を開催しました。

当日は湯沢支署管内の地域振興局や市町村担当者など総勢21名が参加し、支署職員による管内の被害状況等の説明のほか、専門家からナラ枯れ対策に関して詳しく講義を受けるなど実りある調査会となりました。





ナラ枯れとは、カシノナガキクイムシ(以下、カシナガ)がナラの木に入り込み、枯らしてしまう状態のことを言います。枯れたナラの木は、木材としての利用価値が低下するほか、倒木により人的被害を与える恐れがあります。



↑ナラ枯れ被害を受けた森林。所々葉が赤くなっていることが分かります。 (湯沢支署管内 R5 撮影)

湯沢支署ではナラ枯れ被害防止のため、被害の発生後に被害木の伐倒燻蒸や樹幹注入を行ういわゆる「守りの対策」をしていましたが、昨年度から「攻めの対策」として大量集積型おとり丸太を設置しています。

「大量集積型おとり丸太法」とは、2m程の長さに切った健全なナラの丸太とフェロモン剤を設置して、周辺のカシナガを誘引することで被害の拡大を予防する手法の一つで、カシナガが穿入している丸太はチップ原料として有効利用が可能です。

昨年度設置したおとり丸太に対し、専門家から「周辺での被害の抑制には一定程度寄与している。」との評価を得たことから、今年度も継続して設置することになりました。おとり丸太は設置箇所の地形や方角によって誘引されるカシナガの数が大きく変わります。昨年度は樹冠に覆われる箇所に設置したのに対し、今年度は上方が開けた箇所を選定し、おとり丸太を設置しました。



- ~設置したおとり丸太~
- ・使用樹種、規格 コナラ等の広葉樹(健全木) 末口径概ね 15cm 以上、長さ2M 程度
- ・乾燥を防ぐため寒冷紗を使用



カシナガを誘引する合成フェロモン剤も設置

調査会では、設置したおとり丸太のカシナガ穿入状況を確認しました。 丸太に穿入したカシナガは、フラス(カシナガが掘った孔の木くずや糞など が混ざったもの)を出します。参加者はカシナガが穿入していると思われる 孔につまようじを入れ、穿入状況を確認しました。





↑つまようじ3分の1程度入る孔の大きさがカシナガが穿入している目安です

今回、おとり丸太を設置したことにより、概ね 300 本のナラの木を枯らすカシナガの捕獲ができたと推定されました。今年度に関しても周辺の被害抑制に一定程度寄与したことが窺えます。一方、おとり丸太に使う材の乾燥具合や立地環境等、改善点が見えたことも事実です。おとり丸太によるナラ枯れ対策をより効果的なものにしていくためには、2 年間の知見や専門家による助言等を踏まえ、課題を検証していくことが非常に大切になります。

湯沢支署では今後もドローンなど ICT 技術を活用した迅速な被害状況 の把握及び樹幹注入やおとり丸太などのナラ枯れ対策を継続して行い、周 辺自治体などと連携を密にしながら守るべきナラ林の枯損防止に努めてま いります。





↑「守るべきナラ林」天正の滝における樹幹注入の様子